

第1回山形県・酒田市病院統合再編協議会

日時：平成18年11月20日 14時～15時15分

場所：酒田市総合文化センター 412特別会議室

出席者：齋藤弘山形県知事 阿部寿一酒田市長

(運営委員) 野村一芳山形県病院事業管理者 新澤陽英県立日本海病院長 遠藤克二山形県健康福祉部長 高橋節山形県庄内総合支庁長 中村護酒田市助役 栗谷義樹市立酒田病院長 松本恭博酒田市企画調整部長 佐藤俊男市立酒田病院事務部長

(事務局) 山形県病院事業局北庄内医療整備推進室

事務局 (出席委員を紹介)

知事 : 我々のアプローチの仕方としては、できるだけ部分最適でなく全体最適で行こうという考えのもとに、8月末に、約10ヶ月を費やして第三者たる監査法人からの調査報告書により、山形県内の病院事業サービスの提供のあり方についての提言を受けた。そうしたことを踏まえての、市立酒田病院と県立日本海病院の再編統合問題ということである。

基本となるのは、住民に対するサービス、いつでも安心して信頼の置ける、最高水準の高度な医療サービスを提供できる、正に安心・信頼・高度の3つがキーワードになるものと思う。あくまでも我々の視線というのは住民本意でありたいと思う。

実際にこの経営統合を進めていくにあたっては、それぞれの経営体、そこで働く医師、看護師、その他職員もそれぞれに思いがあると思う。そこを我々も十分に斟酌したうえで、この統合再編問題がみんなの納得のいくように最終的に進められることを私としても、お集まりの皆さんもその様に願っていることと思う。

市長 : 地方における自治体病院を取り巻く環境の厳しさはご案内のとおりであり、特に我々、県も市もが対応していかなければならないのは、地域の医療水準を守り、向上させていくことである。そのような状況の中で、最良の選択肢を常々模索し、県当局に我々の思いを訴えてきたところ、齋藤知事はじめ県の当局の方々には正にスピード感を持って判断をしていただき、間を置かずにこのような協議の場を設けていただいて、心から感謝を申し上げます。

この協議会の場では、活発な議論をしてもらいながら、地域のために素晴らしい結論を皆さんとともに導き出していきたいと思っている。その際大事なことは、知事と同じく、議論をするときには住民本位・市民本位・県民本位

の視点で、地域の医療水準をどうやったら維持し向上させていけるのか、ここを大事にしていきたいと思うし、また、これだけ大事な問題を議論するわけなので、今までは県が検討中ということもあったが、これからは議論の過程について県民・市民の方々にオープンにして理解を得ていく姿勢をしっかり持ちたいと思う。

今後どれだけの時間が掛かるのかわからないが、慎重にかつスピード感を持っていく協議会でありたいと思う。地域の医療水準の向上のために新たな一歩を踏み出していただいた県の当局に感謝を申し上げるとともに、県民・市民のために実り多い結論が導き出せるよう関係の方々のご協力をお願いしたい。

事務局 : (事務局紹介と今日の進行について説明)

委員 : 11月10日の運営委員会の報告(内容省略)

委員 : 日本海病院の現状について報告(内容は資料5のとおり)

委員 : 酒田病院の現状について報告(内容は資料5のとおり)

協議

知事 : スケジュールについて、案では基本計画の中に経営形態が入っているが、基本構想の中に経営形態が入ってこないとそれ以降の進め方が難しいのではないかと。基本構想の中には、統合時期・経営形態・設備の3つが入らないと、19年度以降で手戻りが生じてしまって議論が難しくなると思う。

19年度の進め方で四半期ごとに運営委員会を開催することになっているが、進行具合によっては四半期に2回あったり、開催しない期があったりと、柔軟な体制を取ったほうが良いのではないかと。早めに議論が進むのであればそれでよいと思う。

協議会の構成については資料どおりで良いとは思いますが、どこかで住民から意見を聞くチャンネルが必要なのではないかと思われる。公聴の形になるのか、患者へのアンケートになるのか、両方なのか議論があると思うが、どこかの枠組みの中で住民から直接意見を徴する機会を設けることが必要と思う。節目節目で住民の声を聞くことが大事だと思う。

委員 : スケジュールについては、18年度内は各部会での議論になるが、大きい課題なので年度内の数ヶ月では格好を決めるまではできないのではと思う。経



いようなアンケートのとり方、進め方を考えなければならない。

もう一つ早急にやってもらいたいことは、業務量の予測をできるだけ正確に出していただきたい。それがないと整備基本構想をどのようにすれば良いか決まってこない。今の段階でどうこうは言えないと思うが、部会での事務作業を迅速にしていきたい。

市長 : 知事の話は大賛成。基本構想は基本計画をまとめるうえでの通過点ではなくて、県民へのメッセージ性を持ったものにしてほしい。

スケジュールについて、医療懇話会は1回でいいのかという議論もあると思う。基本構想がまとまった段階なのか基本計画の前段階なのか分からないが、その辺りでご意見を伺っても良いのかと思う。また平成20年4月以降に新経営体になるという予定のようだが、この地域の医療を不安定な状態に置かないため、なるべく早くという志は協議会の中で共有したい。

理念と基本方向についてだが、私が市立酒田病院の栗谷院長から常々聞かされていることの一つに、「医療は人的スタッフが非常に大事だ」ということがある。日本海病院も酒田病院も医療スタッフががんばっていると思うが、優秀なスタッフを確保することが地域の医療を守ることに重要と考えるので、この辺に気配りが必要ではないか。

自治体病院の良いところ、問題のあるところとあるわけだが、良いところとして地域住民の健康相談など機動的に活躍してくれるということがある。新体制でも地域との連携はしっかり持ち、また病院・診療所連携も一層強化すると同時に、より高次の三次医療に近づけるよう努力するという基本的な方向性が資料にもうたわれているようなので、自治体病院としての良さや病診連携・地域との密着性と、高次医療が相反しないで実現できる可能性を模索したいと思う。

2病院に限らず全国的に医療の危機が報道されているが、住民に不安を与えないように、情報提供しながら、地域の皆さんの理解を得ていくということは、この問題とは別の柱で大事なテーマではないかと思う。知事が公聴会も一つの手段として提案なされたことは同感である。

委員 : 整備基本構想であるが、どういう病院になっていくのかというイメージを示していきたいと考えている。将来的にこういう医療機能になる、こういう病院になっていくというものを示すのが基本構想ではないかと思う。

医療懇話会についてだが、忙しい方ばかりであるが大変前向きに捉えていただいている。その都度色々な格好で意見をいただければ良いと思っている。

- 知事 : どういう病院になるのかを提示することは、住民と病院で働く人双方にとって重要と思われる。いろいろな情報をもとに我々が決定するわけだが、我々がベストと思って決定したことに嫌気が差して病院から離れていく医師が出るのは残念だが致し方ない。ただ決まらないから不安で病院から出て行くということは避けなければいけない。だからこそ病院の方々や住民が不安に思っていることについて、基本構想で明確にしなくてはならないのではないか。
- 知事 : 業務量の正確な把握は難しいのか。
- 委員 : 単純に現在の両院の業務量を合算すれば最大の予測は立つが、現実的にはそのようなことでは進まないと思う。各診療科で様々な特殊な事情がある。現場の医師たちと相談しながら具体的なものを作っていくことになると思う。外来に関しては、明らかに病診連携により、診療所に割り振るような流れをしているが、それがより強い形になるだろう。
- 知事 : マクロ的な需要予測は出ているのか。
- 委員 : 基本構想の中で、日本海病院以外に250床が最低限必要だということだが、今の時点での話である。団塊の世代が医療を通過していく中で予測するとすると、どの様な疾病になるかということで精査すべきではあるが、非常に幅広くなるのではないか。
- 知事 : 250床必要だという結論を得るためのバックデータの積上げがあるのか。
- 委員 : データから大まかな数字として、250床という数字が出てきた。
- 知事 : そのような数字を現場の医師から見てもらって、現実にはどうなのかということを書いて予測を立てる形になるのか。
- 事務局 : 今日これから合同部会があるので、両院から話を聞いてバックデータを揃えながら検討していく体制を作っていく。
- 委員 : 医療と保健と福祉の三つの軸が連携し合っているので、全体を見ながら議論していただきたい。
- 委員 : 医師が安心して、満足して働けるようにメッセージを出していくことが重要

である。現在働いている医師が全員残って当地区の医療を担っていく体制作りが肝要と思う。

知事 : 今年度末までにできる構想には、各委員がおっしゃったことを入れると、医師や看護師、その他職員が安心できるのではないか。そのうえで判断はそれぞれにというような形に持っていければ良いと思う。走りながら考えるという面はあるが、要所要所はできるだけ早く抑えたほうが良いだろう。

委員 : 先ほどの資金調達の話だが、私も理想的な話とは思いますが、いきなりそこに向かうには難しい話ではないかと思う。

知事 : 病院だけでなく自治体そのものが資金調達について問われている。地方債発行の自由化が、本当の地方分権・地方自治の確立に繋がるのではないか。今のように政府から縛られた、政府保証付きの地方債発行の姿というのは、本来的な地方自治の確立とは程遠い姿だ。国と地方の最大の違いは、地方は赤字債権を発行できないということ。本質的には病院経営だけではなく、地方自治体が独立するためには、金銭的にも独立できるような体制になることが重要と考える。ただ山形県はどうかと言われると、これからもう少し体質改善に取り組んだうえで世の中に問うていくしかないかと。市場調達ができるようになるまで改善する必要があるのだろうと思う。

委員 : いきなりドラスティックに改善していくには、抵抗が予想され難しいと思う。日本海病院は、今年度他の県立3病院が赤字の中で、経営が改善している。それだけ日本海病院の体質はさらに改善の余地がある。実際の財政負担に関しては迷惑を掛けたくないような院長の裁量権で十分任せていただければ可能ではないかと。楽観的かもしれないが、非公務員型でも経営は健全にやっていると考える。

知事 : もう一点だけ、建物の状況は。

委員 : 経営形態がどうなるかによってどのような起債をし、どういう建物を建てるかということが決まってくる。仮に一般地方独立行政法人になった場合、一時借入れをやるような組織でないので、後年の負担が少なくなるように既存の建物を利用すべきと個人的には考えている。医療再編・再構築という話だと、急性期医療であればどのような建物があれば良いのかはおのずと決まってくるが、介護に半分足を踏み入れた領域であるとか、将来介護保険に移行

することが予想される場合をどう扱うか、先々のシナリオを考えないといけない。どういう再配置をするのかで建物が決まってくる。あとは運営形態とでこれからの整備計画が決まる。

個人的には、初期投資を抑えて既存の建物を引き続き有効に使う、必要なものに関しては付帯して周辺に建てるのが良いと思う。ただ理想的にはすべてのもので一元化されて、地理的・時間的にまとまっていたほうが良いのは間違いない。現在の日本海病院の敷地に、医療・保健・介護が一つのネットワークで一元的に管理できれば理想的。その連携点が独法機構の中で一つの空間にまとまっていれば、素敵なものができると思います。

市長 : 現状の建物自体は老朽化している。療養環境でいうと近代的な病院を見ると明るいしきれいだし、スペースも潤沢に取っている。そういうところに比べて酒田病院は陳腐化・老朽化しているのが現状。そんな中でも医療スタッフの頑張りによって何とか支えている。明日倒れるとかいうことではなく、機能的に老朽化している。良いスタッフを確保しながら、患者さんに明るい環境で療養していただくためには、もう待ったなしの状況ではないか。でも全部がそうということではなく、使い方によっては使えるものもあるかもしれない。

今日知事と二人初めて意見を聞いたわけだが、ある意味お客さんである県民・市民に不安を抱かせないためのメッセージ、地域で良質な医療を提供し続けることで何が一番重要かと言えば、医療スタッフの皆さんに不安を与えないこと。知事の言うとおり医療スタッフが中途半端な状況に置かれて辞めていくということは避けなければいけない。病院事業管理者には苦労があると思うが、メッセージ性の高い構想をいち早く作っていただきたい。知事も私も同意見であるのでよろしく願います。

事務局 : これから部会も始まるので、本日の議論や知事・市長の指示も踏まえて、事務局もスピード感をもって協議事務にあたることにするので、よろしくご指導願う。

閉 会

(文責 山形県・酒田市病院統合再編協議会事務局)